



JAWS レポート 61

発行人：山下眞一郎
編集人：桜井邦広 山口千津子
編集協力：平山企画舎



発行 / 社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-1-8 中村屋ビル内 TEL(03)5740-8856 FAX(03)5496-0930 http://www.jaws.or.jp

平成 21 年度動物愛護週間中央行事「動物愛護シンポジウム」（写真はすべて動物愛護週間中央行事実行委員会提供）

めざせ！満点飼い主ー ペットの高齢化について考える

講演要旨

2009年9月20日、東京国立博物館平成館講堂にて動物愛護シンポジウム「めざせ！満点飼い主ーペットの高齢化について考える」が開催されました。基調講演に、若山動物病院院長の若山正之氏をお迎えし、コーディネーター兼パネリストに鷲巣月美氏、パネリストとして井上留美氏、中塚圭子氏より専門分野からの講演の後、パネルディスカッションが実施されました。各講演者の講演要旨をご紹介いたします。（掲載は講演順）



61号主な内容

- 動物愛護週間中央行事シンポジウム講演要旨 1 ~ 2
- 犬プレゼント中止 3
- 捨て犬・捨て猫防止キャンペーン中間報告 3
- 電話相談 3
- 支部だより（栃木・横浜支部） 3
- 第50回動物愛護の作文コンテスト優秀作品紹介 4
- 5

- 理事会レポート・動物カレンダー案内 5
- バッカーズ寺子屋募集案内 5
- 環境省発行物紹介・ブック案内 5
- 寄付者ご芳名／事務局から 6
- 慈善ビンゴ開催案内 6
- ジョーブジニアコーナー 6
- 8 7 7 6 6 6

基調講演 太く！長く！生きよう

若山 正之氏

- ・若山動物病院院長
- ・株式会社わかやま代表取締役
- ・動物用サプリメント shop
- ・Nyanとかシロ、代表
- ・国際動物専門学校 非常勤講師



我々が行っている老齢管理とは「太く長く、明るく楽しく」を合言葉とし、終生自分で食べ、自分で歩き、自分で排泄をしていくこうというものです。今なぜ老齢管理が必要なのかというと、犬猫 2500 万頭のうち半数以上が 7 歳を越えているためです。

老齢とはすべての生き物に共通の生理学的プロセスで、非可逆的な生理機能の衰えです。我々が日々行っている老齢管理で大切な病気として歯の病気、心臓の病気、関節の病気、ホルモンの病気の四つを上げています。飼い主さんが病気の事を知り、早期発見をしてあげることによって犬猫の老化を遅らせることが出来ます。

①歯の病気：歯の病気で多いのは歯周病です。歯周病は口の中の病気ですが、歯茎の傷から体の各臓器までバイ菌が流れて様々な臓器に障害を起こす事もあります。歯周病になると口が臭く、歯が痛くなり抜けてしまいます。歯周病になると時間がかかるので、ご飯を食べるのに時間がかかり、硬い物は食べなくなっています。

②心臓の病気：心臓は全身に血液を供給する役割を持っているので、心臓病になると各臓器に様々な障害が起こることがあります。心臓病は初期の段階では無症状で、加齢と共に発症率と重症度は上昇します。小型犬に多いのが僧房弁閉鎖不全症で、血液の循環が悪くなり、肺に鬱血を起こして咳や呼吸困難の症状が特徴です。心臓が悪い動物は湿った空気を吸い込むと息苦しくなってしまうので、シャンプーを行う際は室内に湯気を立てないようにし、緊張や興奮をさせないことが大切です。

③関節の病気：歳を取ると骨がもろくなり、筋肉や鞘帯の衰えも出てきて軟骨はすり減ります。その結果、骨や関節が変形して神経を圧迫します。痛みや麻痺を訴えてきます。骨関節炎は成犬に多く見られますが、治癒しないので生涯にわたる管理が必要です。

④ホルモンの病気：ホルモンは体の

井上 留美氏

- ・ヤマザキ動物専門学校副校長
- ・アニマル・ヘルス・テクニシャン
- ・動物衛生看護師
- ・ペット栄養管理士



高齢動物のQOL—わたしたちができる事

最近クオリティー・オブ・ライフ（QOL）という言葉がよく使われるようになりました。高齢動物をケアする時はQOLを高め、維持する事が大切と考えられています。今日は高齢動物のQOLの

ために人間がしてあげられる事を考えてみたいと思います。

まず、日本の家庭動物の現状を確認します。2007年と

2008年の日本における家庭

動物の飼育率は、犬と猫だけで約3割以上を占めています（注1）。また、犬と猫の飼育頭数は犬が 1300 万頭以上、猫は 1000 万頭以上（注1）と推定されています。今日は日本の子供の人口より多い数になります。さらに、犬と猫の年齢を 7 ~ 8 歳からをシニア期とすると、飼育されている犬猫の約半数が高齢動物と位置付けられ、長寿化が進んで

機能調節をする生理学的物質です。

犬には甲状腺機能低下症が多く、体温が下がったり、やる気がなくなったりするために老衰と勘違いされ易い病気です。これも治りません。きちんと管理をしていかないと命にも関わりますが、きちんとプロローグすれば長く生きられます。

老齢管理で一番大切なのは飼い主さんの愛情です。病気を治すにはただ単に薬を飲ませればいいわけではありません。そして、二番目は適切な食べ物や住環境の提供です。動物は自分で生活を改善する事はできません。飼い主さんが老いの兆候に気付き、よりよい食生活や環境を作ることが必要です。三番目に大切な管理をしなければなりません。動物が肥満の場合、関節に負担をかけてしまうため適正な体重の維持管理が必要です。関節を適度に動かすような運動もしなければなりません。痛みの管理は動物病院へ相談をして痛み止めを使用したり、痛みを温め、温灸といったお灸も良いでしょう。老齢管理は 0 歳から行うのです。

なります。歯周病の予防は、頸や唾液腺を発達させるために子犬の頸から一生懸命硬い食べ物を噛ませると良いでしょう。老齢管理は 0 歳から行うのです。

②心臓の病気：心臓は全身に血液を供給する役割を持っているので、心臓病になると各臓器に様々な障害が起こることがあります。心臓病は初期の段階では無症状で、加齢と共に良くなります。歯周病の予防は、頸や唾液腺を発達させるために子犬の頸から一生懸命硬い食べ物を噛ませると良いでしょう。老齢管理は 0 歳から行うのです。

③関節の病気：歳を取ると骨がもろくなり、筋肉や鞘帯の衰えも出てきて軟骨はすり減ります。その結果、骨や関節が変形して神経を圧迫します。痛みや麻痺を訴えてきます。骨関節炎は成犬に多く見られますが、治癒しないので生涯にわたる管理が必要です。

④ホルモンの病気：ホルモンは体の

います。また、近年の市場における人気犬種は大型犬が減少し、小型犬が増える傾向（注2）あります。

高齢動物のためのケアは、動物の衣食住すべてに関わりますが、動物看護師はそのほとんどに携わります。飼い主さんのサポートとして励まし、手助けをする事が結果として動物の QOL に通じています。例えば、犬が高齢になり心臓病などの持病がある場合、動物病院で老犬の扱いに慣れた動物看護師が清潔重視のお手入れをすることができます。猫の場合は、シニアになると毛玉ができやすくなり、爪切りも必要になります。

最近の動物医療で注目されているのがリハビリテーションです。これは障害が原因で低下していく動物

の QOL の向上を目的としています。水を利用したハイドロセラピーは、水槽の床が動いて歩行運動ができるようになっています。水の浮力と抵抗を利用して短時間で高い運動効率が期待でき、老犬の体力作りや肥満動物の運動にも有効です。その他飼い主さんが自宅でできるマッサージやストレッチも、関節の柔軟性を高めることができます。犬の全身を触る事は常に有効です。犬の体の異常に気付く事にも繋がります。

寝たきりになつた際の問題は床ずれです。なりやすい部位は骨が出っ張っている部位で、顔にできることがあります。ケアとしては部位変換と衛生管理、栄養管理が重要で、減圧マットなど様々な動物用の介護用品もあるので利用しましょう。

（注1）一般社団法人ペットフード協会
データ
（注2）社団法人ジャパンケンネルクラブデータ

飼い主ネットワークで 犬の老いの不安を解消——老犬教室の実際

中塚 圭子氏

・飼い主と愛犬のためのマナー教室
「ドルチェ・カーネ中塚」代表
・JAHIA (公益社団法人日本動物病院
福祉協会認定 ドッグトレーナー)
・インストラクター
・神戸市動物管理センター
しつけ相談窓口担当



私は15年しつけ教室のインストラクターをやっていますが、老いの悩みや不安を解消するにはどうし

たらよいか、という飼い主さんの要請で2006年より老犬教室を始めました。本日は、老犬教室開催のきっかけ、教室の内容、食への執着対策、そして最後に飼い主ネットワークで老いを乗り切ろうといふお話をさせていただきます。

犬の寿命は段々に延びています。7歳以上の犬の割合も、2006年に42.7%だったのに対し、2007年には55.3%（注1）

と1年間で1割もの老犬が増えている現状があります。

しつけ教室を始めた時には子犬だった犬も10歳以上になり、飼い主さんの悩みも、最近体調不良で動物病院にばかり通っている・表情も乏しくてつまらなそう・うちの犬だけが老いているの？ といったことが多くなりました。そこで、老い支度の第一歩として同窓会を開いてみました。

久し振りの再会となつた同窓会では、犬達も緊張したのか、全ての犬が昔は決してしなかつた粗相

が張つたという場合の対策は、物を

担して医療に取り組む「チーム医療」が深まっています。獣医師は診断と治療、飼い主は動物の命を託している存在、動物看護師は

看護の専門職としてチームを担います。頼れるホームドクターを持つ事は大切ですが、加えて何か困った事や介護に行き詰つてしまつたときは動物看護師にご相談いた

だいたいと思います。これから

時代はそれぞれの立場で動物達の QOL を高める事を目標とし、チーム医療に参加する事がいつそう求められるのではないかでしょうか。

（注1）一般社団法人ペットフード協会
データ
（注2）社団法人ジャパンケンネルクラブデータ

共に暮らした動物を看取る 鷲巣 月美氏

・日本獣医学大学獣医学科
准教授、獣医学博士



（注）日本ペットフード工業会データ

をするなどの驚きもありました。しかし、子犬の頃にやつていたゲームやアグリティを始める、老犬達は自信満々にやり始めました。その経験をもとに、獣医師、動物看護師、人間の看護師、トレーナーの私で内容を話し合いながら、動作はゆっくり、できる範囲で、愛犬の「きもちいい！」を大切にしよう・競争はしない・老化は「進化」ととらえ新発見を楽しもう・老犬グッズや病気の症状、治療法の情報交換をしようという取り決めをして、2006年より老犬教室を始めました。

教室では、「またぐ」「ぐぐる」などのアグリティをすることでも、刺激を味わうと共に、出来た喜びで自信をつけます。老犬たちは明るくなつて、教室の前になると足取りの軽くなる姿もみられました。さて、老犬の悩みのもう一つとして、食べ物にとても執着する「食欲問題」があります。病気の場合もありますが、以前より食い意地

が張つたという場合の対策は、物を

出しておかないと、決まつた時間、決まつた回数でごはんを与えるのでなく、1~2時間をずらしたり、回数を増やしたりしてみる・水やお湯、野菜を混ぜて嵩を増やしてみるなど、飼い主さんが既成概念を取り外す事も必要です。例えば、時間の長持ちするフードの与え方の一つに、ピクニッキシートを広げてそこにフードをばら撒いてみて方法があります。犬は1粒ずつ拾つて食べますので早食いで吐き戻してしまうことも防げます。犬の本能を満足させながら、楽しみながら食べた気になる工夫が大切です。

老犬教室の後は、ティールームでネットワーク作りを十分行います。楽しくおしゃべりしながら、お互いの悩みを打ち明けたり、老犬サポートグッズを試したりもします。このような老犬ネットワークを広げてみませんか。

子犬から老犬へ、人間も犬もみんなが通る道です。最後の一日まで一緒に旅をしていきましょう。

次に、動物が亡くなつてからのお話です。「ペットロス」とは一部メディアでは何か特別なこと、特別な人が経験することのように間違つて取り扱われています。本来の言葉の意味は、一緒に暮らした動物を亡くして悲しいという気持ちのことであり、長さや深さに差はあつても、誰もが体験する決し

て特別なことではありません。悲しい・やり場のない怒り・涙がでる。思い出しては泣く・ぼーっとする。集中力がない・食欲がないなどを経験しますが、段々と元気になつてきます。亡くなつた動物に手紙を書く、アルバムを作るなどで気持ちがすつきりしたという人もいます。

ペットを亡くした人と話す時は、徹底的に聞き上手である事が大切です。そして、悲しいのは当たり前でありますことを伝える・ゆっくり悲しむ時間を持つよう勧める・悲しい気持ちを話すようにすすめる・その動物の死について質問する・共感したり、叱つたりする・他の事で気を紛らわせるようすすめる・他の動物を飼うようすすめる、といったことは助けにならないことなのです。

動物の死が、予期せぬ突然の死・家族とのことで手間暇がかけられるかといった制約要因があります。また、基本的に延命処置は行わない・安樂死が認められているという点で人の医療と大きな違いがあります。安樂死に関しては、獣医師の間でも統一した意見がまとまっているわけではありません、今日は個人の意見としてはお話ししますが、QOL の著しい悪化が起きた時に、動物医療の治療の選択肢の一つとして安樂死は考慮されます。動物の QOL とは、実は答えが一つではなく、動物の状態が全く同じでも、それぞれの家族により評価は異なるものであります。自分の動物の治療方針の決定は、動物の状態、家族の制約を考え、動物と家族にとって最良の方法を「委任状」を持っている家族が選択するのです。

生きている間に絆があつたから悲しいのです。たくさん泣いてもいいですから、是非今を楽しんで、たくさんの絆を築いていただきたいと思います。

【まとめ／菅野多恵・大竹里美】